

- 1部 記録された〈日本〉
——異文化から見た旋律の断片
- 2部 鍵盤上の〈日本〉
——想像された東洋の風景
- 3部 舞台上に立ち上がる〈日本〉
——物語化される異国

萩市大学連携地域づくり推進事業

東方、百年の夢

シィボルトの調べからプツチーニまで

2026年

3/28
(土)

13時半開場 14時開演

萩市民会館 小ホール

一般1,000円

学生 500円



チケットの申し込みはこちら

mail: jun-s49@yamaguchi-u.ac.jp
tel/fax: 083-933-5359

助成: 萩市大学連携地域づくり推進事業

後援: 萩市

主催: 白岩研究室



企画・バリトン
白岩 洵



ピアノ
友清 祐子



ソプラノ
坂井 里衣

ジャポニズム —— 西洋が夢見た 〈日本〉

ジャポニズムとは、19世紀後半、主にフランスを中心としたヨーロッパで広がった「日本趣味」の潮流を指します。鎖国を終え、開国によってもたらされた浮世絵や工芸品は、当時の芸術家たちに新鮮な衝撃を与えました。

絵画の世界では、ゴッホが歌川広重を模写したことや、モネに象徴されるように、日本の構図や色彩感覚が西洋美術に深く浸透していきます。ドガをはじめとする画家たちにも、日本美術の影響を見ることができでしょう。

この「日本へのまなざし」は、音楽の世界にも及びます。

ドビュッシーの鍵盤作品に漂う東洋的な響き、プッチーニのオペラ《蝶々夫人》に描かれた日本像——そこには、実際の日本というよりも、西洋が想像し、憧れ、託した〈日本〉の姿が映し出されています。



P. F. v.シーボルト



C.ドビュッシー



G.プッチーニ

記録された 〈日本〉

—— シーボルトの時代

19世紀前半、医師・博物学者であったフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトは、日本滞在中に耳にした旋律を、帰国の際に採譜させ、ヨーロッパで楽譜として出版しました。

異文化の音を「記録し、伝える」という試みは、後のジャポニズム文化に先立つ、きわめて先駆的な営みだったと言えるでしょう。

本企画は、萩とシーボルトの関わりに着想を得て、この地点から音楽によるジャポニズムの歩みをたどります。

東方、百年の夢

およそ百年のあいだ、西洋の音楽家たちは、日本に何を見だし、何を夢見てきたのでしょうか。

本公演では、「記録された日本」「想像された日本」「物語として描かれる日本」という三つの視点から、ジャポニズム音楽の軌跡を描き出します。

第1部：記録された〈日本〉——異文化から見た旋律の断片

P. F. v.シーボルト採譜

J. キュフナー編曲 《日本の旋律》 (1836)

R. デットリヒ作曲 《日本楽譜》 (1894) 他

第2部：鍵盤上の〈日本〉——想像された東洋の風景

C. ドビュッシー作曲 〈水の反映〉 (1905)

〈金色の魚〉 (1907)

M. ラヴェル作曲 〈洋上の小舟〉 (1904-5)

第3部：舞台に立ち上がる〈日本〉——物語化される異国

A. サリヴァン作曲 オペレッタ《ミカド》 (1885) より 〈ミカドとカティシャの入場〉

G. プッチーニ作曲 オペラ《蝶々夫人》 (1904) より 〈ある晴れた日に〉 他

出演者

白岩洵 バリトン

東京都足立区出身。自由の森学園を経て、東京芸術大学声楽科バス専攻へ入学。同大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻を音楽教育分野にて修了。声楽を大島博、高丈二、福島明也、故長町順史、小森輝彦の各氏に師事。大学在学中は芸大バハカンタークラブに在籍し、小林道夫氏薫陶のもとバハ諸作品を学ぶ。二期会オペラスタジオマスタークラスを修了。ドイツ・シュトゥットガルトにてディートリヒ・ヘンシェル、ヘルムート・ドイチュら各氏のマスタークラスを修了。

東京藝術大学へALC研究員として勤務した後、2017年に山口大学へ着任。以降、山口県内においては、ソレイユトリオをはじめ地元演奏家との演奏活動の他、後進の育成、またオペラ文化の振興を目指し2021年に山口オペラアカデミーを発足。

東京二期会会員。日本ドイツリート協会会員。高声会会員。山口大学専任講師。

友清 祐子 ピアノ

山口県防府市出身。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学卒業。ハンガリー政府給費留学生としてハンガリー国立リスト音楽院に留学し、3年間研鑽を積む。2001年夏、イタリア・シエナにてマウリツィオ・ポリーニ氏のセミナーに参加。東京藝術大学大学院修士課程修了。これまでに、新ブダペスト弦楽四重奏団と共演。

第42回・43回全日本学生音楽コンクール福岡大会第2位。第3回 WAKI PIANO コンクール、教育長賞受賞。第4回かやぶき音楽堂デュオコンクール第1位。

これまでにピアノを徳万良子、植田克己、シャーンドル・ファルヴァイ、迫昭嘉の各氏に、室内楽をシャーンドル・デヴィチ氏に師事。

東京藝術大学音楽学部非常勤講師を経て、現在、山口大学教育学部准教授。

坂井里衣 ソプラノ

1997年エリザベト音楽大学声楽学科に入学。飛び級にて、同大学大学院修士課程入学。在学中、イタリアに留学。2003年エリザベト音楽大学大学院修士課程修了。2011年エリザベト音楽大学大学院博士後期課程満期退学。

第2回ミネルピオ国際声楽コンクールファイナリスト。第8回KOBE国際音楽コンクール声楽部門最優秀賞受賞。第52回西日本出身新人演奏会にて審査員奨励賞受賞。第28回飯塚新人音楽コンクール声楽部門第3位。第8回藤沢オペラコンクール入選。第6回長久手国際オペラコンクール第2位。第3回東京国際声楽コンクール入選。平成24年度芸術・文化若い芽を育てる会特別賞受賞。第7回夢二コンクールファイナリスト。

現在、オペラや宗教曲等のソリストとして活躍し、後進の指導にも力を入れている。